

めぐみイエス・キリスト教会

2026年1月18日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第791号」



2026年標題聖句

ヨハネの福音書14章1節～2節

《「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、また私を信じなさい。私の父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかつたら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、私は場所を備えに行くのです。」(新改訳第Ⅱ版)》

礼拝 毎週日曜日 午前10時～11時

聖書の学びと祈り会 每週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木竜実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美 I】 新聖歌209「慈しみ深き」 p. 316

【交読文】 No.3 詩篇第16篇 p. 880

【賛美 II】 新聖歌233「驚くばかりの」 p. 354

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美 III】 オリジナル曲「神の都へ」

【聖書朗読】 ヨハネの黙示録3章14節～21節(新約p. 497)

【礼拝説教】 「教会の使命とは？」

【聖餐式】

【賛美 IV】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌栄】 新聖歌63「父・御子・御靈の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ヨハネの黙示録3章14節～21節)

3:14 また、ラオディキアにある教会の御使いに書き送れ。『アーメンである方、確かに真実な証人、神による創造の源である方がこう言われる。

3:15 私はあなたの行ないを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。

3:16 そのように、あなたは生ぬるく、熱くも冷たくないので、私は口からあなたを吐き出す。

3:17 あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、足りないものは何もないと言っているが、実はみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸であることが分かつていない。

3:18 私はあなたに忠告する。豊かな者となるために、火で精錬された金を私から買い、あなたの裸の恥をあらわにしないために着る白い衣を買い、目が見えるようになるために目に塗る目薬を買いなさい。

3:19 私は愛する者をみな、叱ったり懲らしめたりする。だから熱心になって悔い改めなさい。

3:20 見よ、私は戸の外に立ってたたいている。だれでも、私の声を聞いて戸を開けるなら、私はその人の所に入って彼と共に食事をし、彼も私と共に食事をする。

3:21 勝利を得る者を、私と共に私の座に着かせる。それは、私が勝利を得て、私の父と共に父の御座に着いたのと同じである。

●ポイント1.「ラオディキア」とは？

■ラオディキア「国民の義」という意味。小アジア西部、フルギヤ地方の主要都市の一つで、エペソの東150キロにあった。商業都市、金融都市として発展し、「フルギヤの粉末」と呼ばれる目薬でも知られていた。新約時代、パウロの弟子エパフラスがコロサイ、ヒエラポリスと共に、ラオディキアの教会の基礎を築いたと伝えられている。

●ポイント2.「教会の使命」とは？

※第 I テサロニケ5章4節～9節「使徒パウロの勧めから」(新約p.412)

5:4 しかし、兄弟たち。あなたがたは暗闇の中にいないので、その日が盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。

5:5 あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもなのです。私たちは夜の者、闇の者ではありません。

5:6 ですから、ほかの者たちのように眠っていないで、目を覚まし、身を慎んでいましょう。

5:7 眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うのです。

5:8 しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛の胸当てを着け、救いの望みというかぶとをかぶり、身を慎んでいましょう。

5:9 神は、私たちが御怒りを受けるようにではなく、主イエス・キリストによる救いを得るように定めて下さったからです。

◎先週のメッセージ【備えられた場所】

《2026年の年頭聖句は、ヨハネ14章1節～2節ですが、3節まで学びたいと思います。さて、主イエスは、弟子たちに「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じまた私を信じなさい。」と言われました。

実は主が弟子たちに語られた言葉が、今、ものすごいスピードで成就しています。「戦争や戦争のうわさを聞くことになりますが、気をつけて、うろたえないようにしなさい。そういうことは必ず起こりますが、まだ終わりではありません。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで飢饉と地震が起こります。」(マタイ24:6～24:7)

世の終わりが近づいています。昨今の世界情勢を見ますと、私たちは、恐れ不安になります。しかし主は、「うろたえてはならない」と命じられ、さらに「神を信じ、また私を信じなさい」とも言われています。

そして、次に言われたことが、「私の父の家には、住まいがたくさんあります。もしかしたら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、私は場所を備えに行くのです。」ということです。

私たちの国籍は天にあります。この世における住まいは、仮庵(仮の住まい)なのです。次に主イエスが言われたことは、「私が行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたを私のもとに迎えます。私のいる所に、あなたがたをもおらせるためです。」であり、「私が行って」とは、十字架と昇天のことです。そして、「また来て」と言うことは、携挙と再臨のことです。次なる預言の成就是、「携挙」です。『号令と御使いの頭の声と神のラッパの響きと共に、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主と共にいることになります。(第Ⅰテサロニケ4:15～4:17)』と、パウロは言います。これこそが、私たちクリスチヤンの最終ゴールなのです。』

◎お知らせ

※本日午後2時、鈴木師は、聖書キリスト教会大会に参加します。